

SUWA SHINKIN BANK REPORT 2023



経営理念

諏訪信用金庫は、みなさまと共に、
豊かな地域社会の実現をめざします。

経営方針

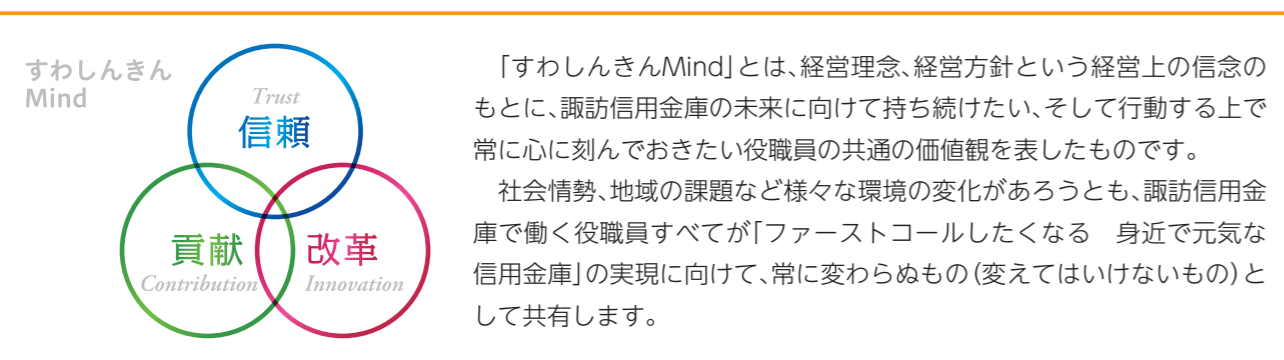
1. 質の高い金融サービスの提供
2. 法令遵守と健全経営の徹底
3. 職員の資質向上
4. 働きがいのある明るい職場づくり

プロフィール

名称		諏訪信用金庫	
本店所在地	〒394-8611 長野県岡谷市郷田2-1-8	常勤役員数	271人
電話番号	0266-23-4567	会員数	21,840人
創立	昭和12年3月6日	出資金	8億72百万円
店舗数	21店舗	預金積金残高	4,185億83百万円
ATMコーナー数	25ヶ所	貸出金残高	1,859億12百万円
		自己資本比率	23.28%

(令和5年3月末現在)

中期経営計画



ごあいさつ



諏訪信用金庫 会長 今井 誠
諏訪信用金庫 理事長 田中 輝明

皆さまには、平素から諏訪信用金庫に対しまして格別のご愛顧を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

ここに当金庫の現況につきまして、より深くご理解いただくために、経営方針ならびに令和4年度の業務・活動報告をまとめた「諏訪信用金庫ディスクロージャー2023」を作成いたしました。ご高覧いただければ幸いです。

令和4年度は、拡大と縮小を繰り返した新型コロナウイルスやロシアのウクライナ侵攻など、多方面にわたる想定外のリスクがあり、諏訪地方も大きな影響を受けました。絶えず警戒感を持った事業活動や住民生活でしたが、年度後半には感染状況が「小康期」となり、アフターコロナへの動きが生まれました。諏訪大社御柱祭も人出は前回の約10分の1でしたが、祭りへの氏子の心意気は変わらず、小宮御柱を含め立派に次回へ継承されました。

コロナ禍は大変なリスクですが、反面で「3密」などの言葉が生まれ、人間関係や物事の「距離感」に対する意識が変わりました。WEB会議やリモートワークなどで、時間や場所の制約を受けずに働く新たな形態が定着しました。デジタル化も急速に進展し、今後もAIやIoT、ビッグデータを活用してビジネスモデルの創出などを実現するDXへの流れとなっています。この変化は、既存の価値観や枠組みそのものを根底から覆すともいわれます。変化は長野県内の金融業界にも起きています。

新しい時代に向けて、既存のシステムや慣習を見直し、市場や環境のニーズの変化に柔軟に対応することが求められます。当金庫は個人向けのライフプランセンター、企業向けのビジネスサポートセンターが営業店を後押しし、多分野の団体や専門家と連携し、それぞれのお客様のニーズに合わせた「伴走型」のサポートを行っています。

新たな動きには臨機応変な対応が必要ですが、その前に、私たちはどのような距離感であっても常に地域と向き合い、「共に歩む」という変わることがない基本理念を再認識しています。その上で、今後も全役員は様々な場面で、今よりも一つ付加価値を加えるプラスワンの精神を持って、豊かな地域社会の実現に取り組んでまいります。

地域の皆さまには、変わらぬご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

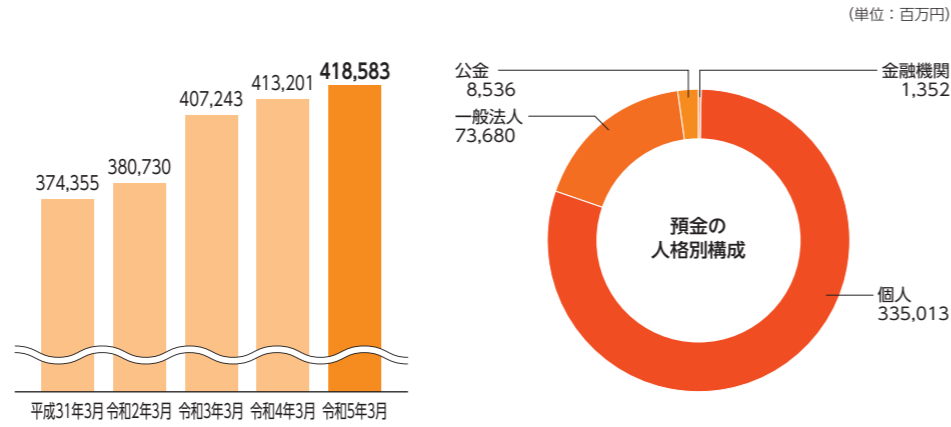
諏訪信用金庫 理事長 田中 輝明

令和4年度業績ハイライト

●預金積金残高

4,185億円
前期末比+53億円

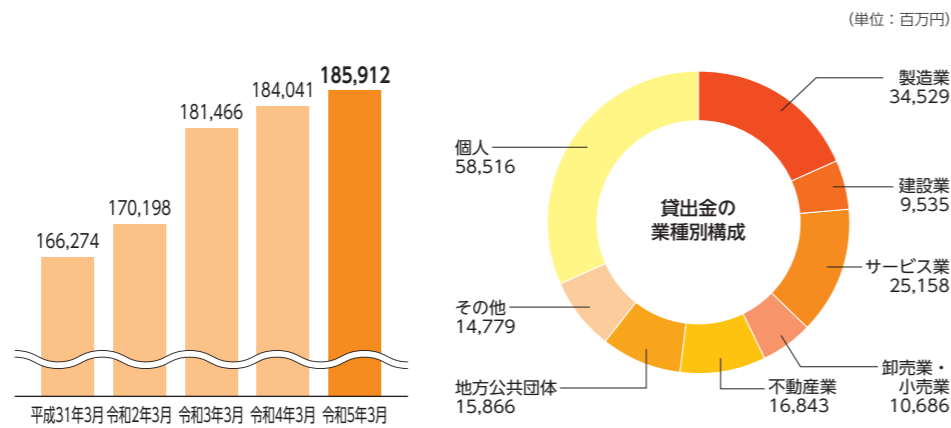
預金積金残高は、個人のお客さまからの預金を中心に順調に推移し、前期末比53億81百万円増加しました。



●貸出金残高

1,859億円
前期末比+18億円

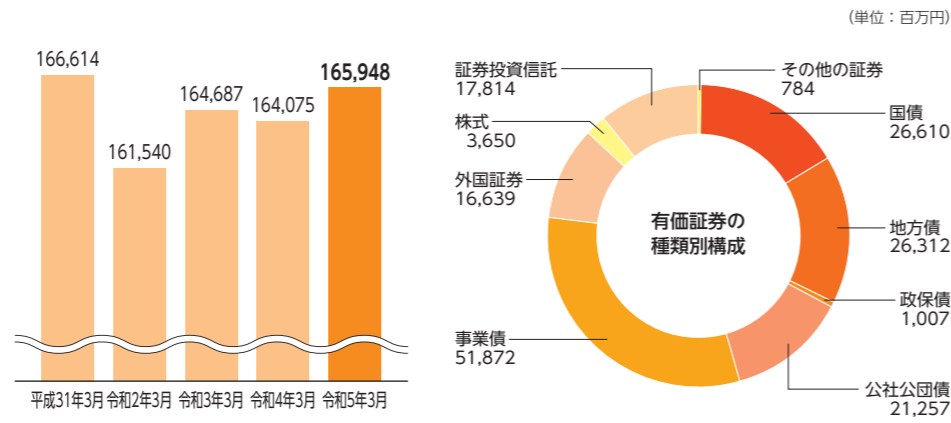
貸出金残高は、地域のお客さまの資金ニーズに積極的にお応えし、前期末比18億71百万円増加しました。



●有価証券残高

1,659億円
前期末比+18億円

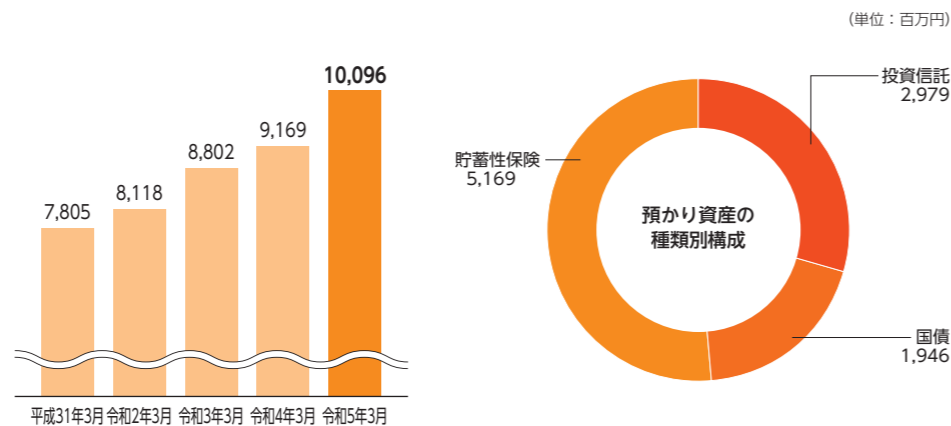
有価証券運用は、流動性が確保された商品、リスクの所在が明確な商品を中心とした運用を心掛けております。



●預かり資産残高

100億円
前期末比+9億円

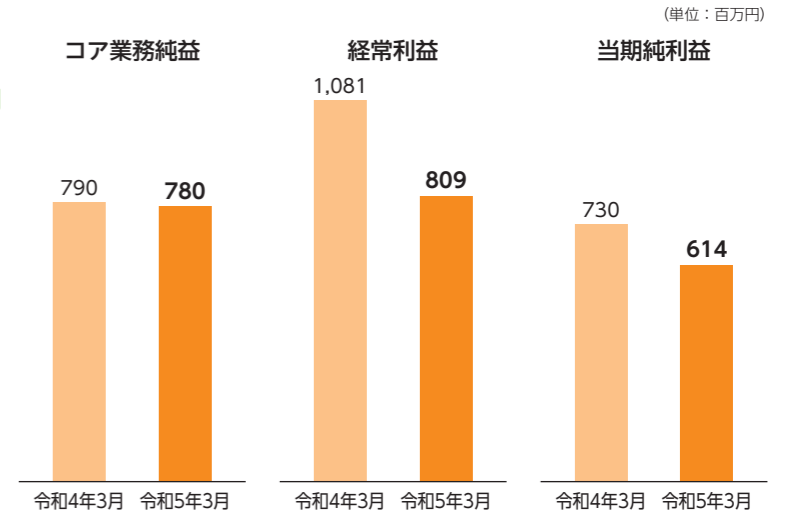
お客さまの保有資産の状況や運用方針に合わせた、商品やサービスの提案を行っております。



●当期純利益

6億円 前期末比△1億円

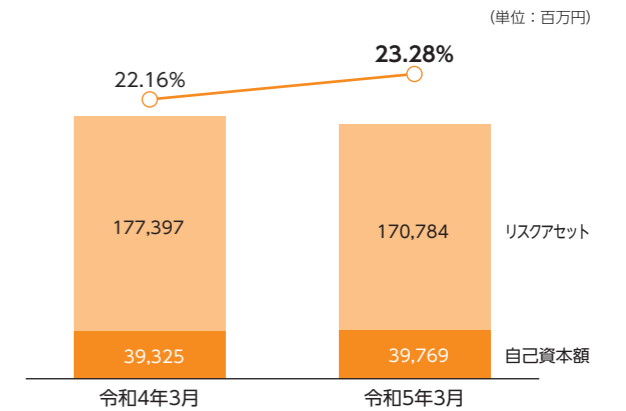
金融機関の主業務活動による利益を示すコア業務純益は、有価証券利息配当金の減少などにより、前期末比10百万円減少しました。また、経常利益は有価証券関係損益の減少などにより、前期末比2億71百万円減少、当期純利益も1億15百万円減少しました。今後も、地域のお客さまのニーズにお応えできる業務展開と安定的な収益確保により、「安心と信頼」のさらなる向上に努めてまいります。



●自己資本比率

23.28% 前期末比+1.12ポイント

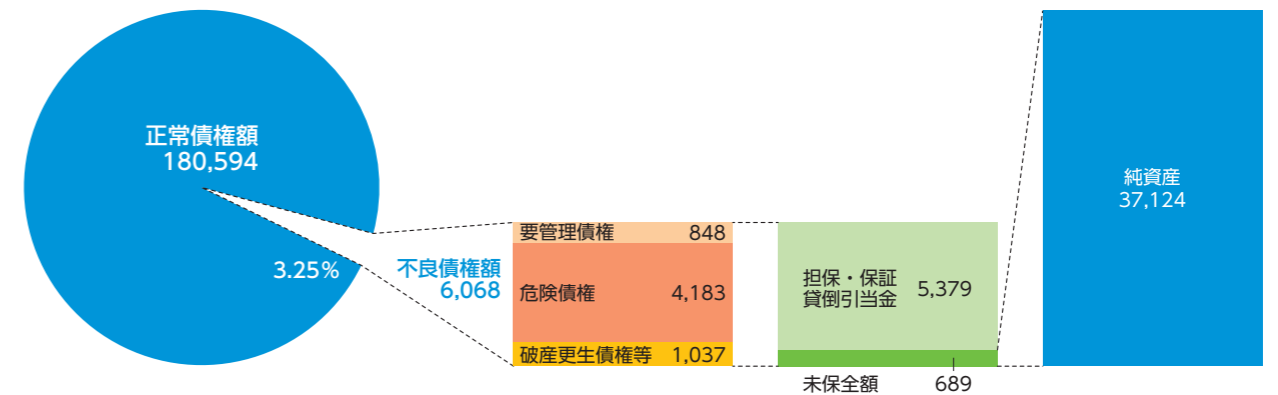
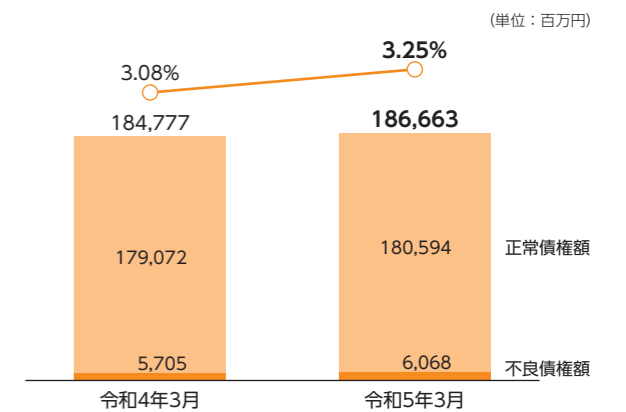
自己資本比率は、金融機関の健全性を示す指標として用いられ、その水準が高いほど、経営がより健全であることを示しています。令和5年3月期における自己資本比率は23.28%であり、金融庁告示に定められている国内基準4%を大幅に上回っています。



●不良債権比率

3.25% 前期末比+0.17ポイント

金融再生法に基づく不良債権額は、前期末比3億63百万円増加の60億68百万円、不良債権比率は0.17ポイント増加し3.25%となりました。不良債権のうち88.6%は担保、保証等により保全されており、保全されていない部分は6億89百万円となりますが、当金庫は371億円の純資産を備えており、影響は極めて少ないものとなっています。



SDGsへの取り組み

当金庫は、国連で採択された持続可能な開発目標「SDGs」に賛同し、令和元年6月21日にSDGs宣言を行いました。経営理念「諏訪信用金庫は、みなさまと共に、豊かな地域社会の実現をめざします。」のもと、地域金融機関として事業活動を通じ、「①地域社会 ②地域環境 ③地域経済」の3つの側面から持続可能な地域の実現に貢献していきます。



SDGs「持続可能な開発目標」とは

SDGsとは、Sustainable Development Goalsの略称であり、2015年9月の国連サミットで採択された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴールと169のターゲットから構成されています。

SDGs定期預金

当金庫のSDGsの取り組みに賛同していただいたお客さまを対象に特別金利のSDGs定期預金「諏訪の森」を発売し、諏訪地方6市町村の要望に合わせた自然災害発生時に活用できる物品（募集総額60億円の0.01%相当額の60万円分）を寄贈しました。



(金子諏訪市長に非常用折りたたみベッドを寄贈)

- ▽岡谷市=ポータブル電源一式と付随品
- ▽下諏訪町=組み立て式段ボールベッド10式
- ▽諏訪市=非常用折りたたみベッド9台
- ▽茅野市=アルミマット50枚
- ▽富士見町=高性能懐中電灯2台、無線格納道具5台
- ▽原村=簡易トイレ7個、非常用トイレ7個、子ども用おむつ40セット、大人用おむつ10セット、生理用品

すわしんSDGs宣言サポートサービス

事業者さまのSDGsの取り組みをサポートするため、三井住友海上火災保険株式会社と提携し、令和4年4月から「すわしんSDGs宣言サポートサービス」の提供を始めました。

事業者さまのSDGs達成に向けた取り組み状況の見える化、SDGs宣言策定サポート、見える化で明らかになった課題のソリューションを提供します。

本サービスの中小企業サポート事例14ページもご覧ください。

SDGsサポートローン

SDGsや脱炭素経営に取り組むお客さまの資金ニーズに応えるため、「諏訪信金SDGs・脱炭素サポートローン」を取り扱っています。再生可能エネルギー、省エネルギー設備資金やSDGsの取り組みに係る運転・設備資金にご利用いただけます。

SDGs債への投資

当金庫は、長野県が発行したグリーンボンドをはじめ、環境・社会課題解決などSDGsに貢献する事業に資金が充当されるSDGs債に投資を行っています。

今後もSDGs債への投資を通して、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

令和3年度	令和4年度	累計
27億円	26億円	86億円

地域環境への取り組み

地域ボランティア活動への参加

地域環境への取り組みの一環として、ネーミングライツを取得した「しんきん諏訪湖スタジアム」の美化活動をはじめ、長野県諏訪建設事務所が主催する諏訪湖美化活動「諏訪湖アダプトプログラム」への参加など地域ボランティア活動を継続して行っています。



森林の里親事業の実施

平成26年5月に北真志野生産森林組合と「森林の里親契約」を締結以降、森林保全活動「森林の里親事業」を実施しています。緑多き恵まれた環境に感謝し、次世代にこの環境を引き継いでいくためにこれからも継続して実施していきます。



脱炭素への取り組み

電気自動車の導入

脱炭素社会に向けた取り組みの一環として、営業車両に初めて電気自動車を導入しました。導入した電気自動車は100%電気で作る軽自動車で、1回の充電で約160kmの走行が可能です。当金庫は今後も二酸化炭素排出削減に取り組んでいきます。



ゼロカーボンに関する巡回パネル展

「2050年ゼロカーボンシティ宣言」をした岡谷市と連携して、ゼロカーボンに関する巡回パネル展を岡谷市内の店舗で行いました。地球温暖化が引き起こす影響、家庭でできる省エネ、省エネ家電の買い替えなどを説明したパネルを設置し、脱炭素社会の必要性をPRしました。



諏訪信用金庫 環境方針

当金庫は地域環境・地球環境の保全に配慮した事業活動を通じて、地域金融機関としての社会的責任、公共的使命を果たしていきます。

- 1 適用可能な法的要求事項および当金庫の環境側面に関して、当金庫が同意するその他の要求事項を順守します。
 - 2 環境管理システムを構築し、全要員参加により継続的改善への取り組みと、環境汚染の未然防止と環境保全に努めます。
 - 3 この方針に沿って環境目的および目標を設定し、かつ見直します。
 - 4 当金庫は次のような課題を掲げ、全要員一丸となって取り組みます。
 - ①省エネルギー・省資源の推進 ②資源のリサイクル ③環境配慮型の金融商品、サービス、情報の提供 ④地域美化運動への参加
- この環境方針は、全要員に周知徹底し、また当金庫外へも公表します。



地域貢献活動

塗り絵で交通安全や防犯呼びかけ初の「ライポくんぬりえ大会」

長野県警のシンボลมスコットの「ライポくん」と「ライプィちゃん」を使って親子で交通安全や防犯意識を高めてもらう「ライポくんぬりえ大会」を行いました。塗り絵の図柄は、電話でお金詐欺の注意喚起をするライポくんと、ライポくんとライプィちゃんが手（羽）を上げて横断歩道を渡る2種類で、約400作品の応募があり、応募作を各営業店で展示しました。



次世代を担う子どもたちに金融講座の開催

次世代を担う子どもたちの金融リテラシー向上のために、諏訪実業高等学校、諏訪清陵高校附属中学校で金融講座を開催しました。社会人になるまでに必要なお金の確認、資産形成の必要性や方法など「お金の授業」を分かりやすく説明しました。



しんきんカップ少年サッカー大会開催

地域のスポーツ振興や、スポーツを通じて次世代を担う子どもたちを積極的に支援するために諏訪スポーツ広場で、「しんきんカップ少年サッカー大会」を開催しました。今年で連続9回目の開催となり、諏訪地域の少年サッカーチーム9チーム約135名の子どもたちが参加しました。



※独立行政法人日本スポーツ振興センターとのタイアップ事業

親元を離れた子どもたちを支援

岡谷市川岸の児童養護施設つづじが丘学園に、支援金10万円とお米60kgを寄付しました。当金庫は創立80周年記念を契機に毎年、親元を離れざるをえなくなった子どもたちに継続的な支援をしています。



信濃グランセローズの公式戦に子どもたちを招待

しんきん諏訪湖スタジアムで行われる信濃グランセローズの公式戦に諏訪地方の小学生約1万名を招待する取組みを行いました。今年で6年目となり、金子ゆかり諏訪広域連合長に入場券を寄贈しました。



6月15日は「信用金庫の日」

「信用金庫法」が昭和26年6月15日に公布・施行されたことにちなみ、6月15日を「信用金庫の日」と定め、毎年全国の信用金庫で様々な地域貢献活動が行われています。当金庫では、職員が献血と募金活動を行いました。



コロナ禍の諏訪大社御柱祭を盛り上げる活動

コロナ禍の中で行われた諏訪大社御柱祭は、毎回100人規模で参加する当金庫の花笠踊り連・長持ち連も今回は断念せざるをえませんでした。それでも、できる限り御柱祭を盛り上げるために営業店ごと工夫し、地域の皆さまのご協力をいただきながら写真展を開催し、法被や長持ち連の写真を入れた缶バッジを着用した営業などを行いました。

諏訪しんきんサービスが初の地域貢献事業

当金庫のグループ会社の諏訪しんきんサービスが、地域貢献事業として、上諏訪駅前のアーク諏訪でパンづくりを通じた婚活イベント「すわっチャオDEであっチャオ」を開催しました。また、この取組みが認められ長野県から「しあわせ信州婚活応援団」に認定されました。



御湯泉神社の御柱祭

上諏訪支店の敷地内にある当金庫の守り神・御湯泉神社の御柱祭を行いました。7月に山出し、10月に里曳きと建て御柱を行いました。コロナ禍のため規模は縮小しましたが、地域の皆さまも交えてにぎやかな祭りとなりました。



地域の活性化の取組み



SUWAの未来シンポジウムの開催

「諏訪から地域の未来を考える」をテーマに、SUWAの未来シンポジウムを開催しました。「地域の魅力研究所」代表理事の多胡秀人氏が「いま地域金融機関がやるべきこと」と題して基調講演し、浜松いわた信用金庫が「SDGs先進地域からの提言」をしたほか、諏訪の若手経営者との座談会、諏訪の産学連携の事例や地元企業を紹介するパネル展示を行いました。



連携協定「しんきん中部横断道コネク」の活動

4信用金庫（諏訪、甲府、山梨、しずおか焼津）が新たな物流、サプライチェーンの創出に向け締結した連携協定「しんきん中部横断道コネク」の活動を行いました。初めて諏訪地方で、しずおか焼津信用金庫のお取引先さまがカツオやマグロなどの海の幸を販売しました。今後も様々なイベントを予定しています。

本活動の中小企業サポート事例12ページもご覧ください。



若手経営者・後継経営者の育成

若手経営者・後継経営者を中心に組織した「ユースクラブ」「ビジネスクラブ」は約320名の会員が加入しており、諏訪エリア内で最大規模の組織となっています。同クラブでは、経営者や会員企業社員を対象とした各種研修会や講演会を開催しています。

令和4年度は、新人若手社員対象の「早期育成研修会」や中間管理者対象の「意思決定能力向上研修会」を実施しました。元プロ野球監督の落合博満さんや経済ジャーナリストの内田裕子さんをお招きした講演会や青山学院大学の原晋さん、ジャパネットたかた創業者の高田明さんのWEB講演会を開催しました。



お客さまに安心してご利用いただくために

当金庫では、特殊詐欺被害などからお客さまの大切なご預金を守るための取組みをしています。

特殊詐欺防止の啓発活動

岡谷、諏訪、茅野の3警察署と連携し、4月、10月、12月の年金支給日に各署管内の商業施設などで、特殊詐欺防止活動を行いました。特殊詐欺防止のチラシとメモ帳を渡しなが、被害防止を呼びかけました。



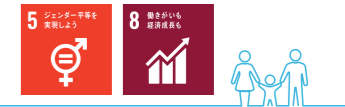
ATM取引の一部利用制限

ご高齢のお客さまを対象とした振り込み詐欺等の特殊詐欺による被害を未然に防止するため、当金庫では、令和4年4月11日より次の70歳以上のお客さまが保有する口座のATM取引を一部制限しています。

- ①過去2年間出金取引のない口座
- ②過去2年間ATM振込取引のない口座



職員の資質向上と次世代育成支援、女性活躍推進



金庫人生50年から学ぶ職員研修

当金庫では、職員の資質向上に向けた独自の取組みを行っています。信用金庫人生50年を迎えた今井誠会長が、「みなさんに伝えたいこと」と題して、全職員に随時配信する庫内メールです。自らの経験を職員の参考にしてもらい、能力向上の一助になれば、との願いから始めました。

一律に全職員に向けただけでなく、若手職員向け、支店長向け、職員を評価する立場向けなど職域ごとにも語りかけています。パソコンも携帯電話もないころの社会情勢から最新の動き、信用金庫人としての考え方、同様の時代を過ごしてこられたお客さまの気持ちなどを知る貴重な機会となっています。

今井会長はこのほかにも自らが主催する勉強会を開いたり、幹部職員向け講演会を行うなど、後進の育成に取り組み、職員は生きた知識を学んでいます。



子育てサポート企業

当金庫は次世代育成支援行動計画に取り組み、その実績により長野労働局から「子育てサポート企業」として「くるみん」が認定されました。今後も引き続き取り組み、職員が働きやすい職場環境づくりと地域社会に貢献してまいります。



一般事業主行動計画

すべての職員がその能力を十分発揮し、安心して働き続けることができる雇用環境の整備を図るとともに、次世代育成支援において地域に貢献する金融機関となるために、次のような行動計画を策定しています。

- ・男性の子育て目的の休暇取得を促進します。
- ・有給休暇取得日数を一人当たり年間平均10日以上とします。
- ・大学生（短大生等含む）のインターンシップ制度を継続的に実施します。

女性活躍推進に係る行動計画

女性職員が継続的に働き、キャリアを積み重ねることができる環境を整える必要があります。キャリアを重ねた職員を管理職に登用していきませんが、そこでの女性職員が占める割合を増やしていきます。

目標として管理職に占める女性職員の割合を8%以上に掲げています。

職場環境改善の取組み

長野県は職場環境改善事業の一環として、誰もがいきいきと働くことができる職場づくりに先進的に取り組み、実践する企業を「職場いきいきアドバンスカンパニー」に認定しています。3種類あるコースのうち、当金庫は様々なライフスタイルやニーズに合わせた働き方ができる企業として「ワークライフバランスコース」、若者や氷河期世代の育成に積極的に取り組む企業として「ネクストジェネレーション」の2コースで認証されています。

